

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成30年12月13日(2018.12.13)

【公表番号】特表2018-531199(P2018-531199A)

【公表日】平成30年10月25日(2018.10.25)

【年通号数】公開・登録公報2018-041

【出願番号】特願2018-521071(P2018-521071)

【国際特許分類】

B 6 5 H 19/29 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 19/29

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月1日(2018.11.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

図 2 及び図 3 に示すように、コイラ 3 0 は変換機 2 6 の下流側に位置し、出口 4 0 から荷敷きの帯を受け取る。システム 2 0 は、出口 4 0 からコイラ 3 0 まで下流側へ向かうガイド通路を画定するガイド部材 4 2 を備えてもよい。ガイド通路は下流へ向かう荷敷きの帯の移動を規定し、帯本体がコイラ 3 0 によって受け取られ巻回されるよう導く。荷敷きの帯は変換機 2 6 の出口 4 0 から出て、帯の先端がコイラ 3 0 に到達すると、帯の先端は、帯を受け取る一対のコイラフォーク 4 4 の間を通る。帯が変換機 2 6 から出続ける一方、コイラ 3 0 はフォーク 4 4 に平行な巻回軸周りにフォーク 4 4 を回転させて、帯を巻回する。コイラフォーク 4 4 は下流方向に対して垂直に伸び、そのため、巻回軸は下流方向と垂直となる。コイラフォーク 4 4 は、コイラ 3 0 の回転基部 4 7 に固定される端部 4 6 を有する。帯の巻回が完了する際、帯の後端が出口 4 0 から出切るまで、フォーク 4 4 は回転を続けてもよい。コイラ 3 0 は、巻回が完了したコイルをコイラフォーク 4 4 からチューブ 2 4 の方へ又はチューブ 2 4 の内部へ移動させるためのコイルエジェクタを備えてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

図示されるシステム 2 0 において、コイルエジェクタは、荷敷きのコイル状の帯を、コイラ 3 0 から排出方向にあるチューブ 2 4 内へと軸方向に移動させる可動ブッシャ 4 8 (可動押し部材)を備える。排出方向は巻回軸と平行であり、下流方向を横断する。コイラ 3 0 が巻回軸周りに帯を巻回する間、ブッシャ 4 8 は最初、コイラフォーク 4 4 の端部 4 6 とコイラ 3 0 の基部 4 7 の近傍の巻回位置にある。コイラ 3 0 が帯を巻回し終わった後、ブッシャ 4 8 は、コイル状の帯を排出方向にあるチューブ 2 4 の中へと軸方向に移動させるため、巻回位置から離れた移動後位置へと移動可能である。図示されている実施形態では、ブッシャ 4 8 は、円形の開口 5 0 を有するディスク状の本体を備え、ブッシャ 4 8 が巻回位置から移動後位置へ排出方向に動く際、コイラフォーク 4 4 は開口 5 0 を通って延在する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

要約すれば、本発明は荷敷きのコイル状の帯を製造する荷敷き製造システム20であって、带状の荷敷き29の供給部と、供給部と隣接するコイラ30であって、带状の荷敷き29の帯を巻回してコイル状の形を有するコイルにするために巻回軸周りに回転可能であるコイラ30と、巻回軸に揃えられるチューブ24とを備える。チューブ24は、コイラ30からのコイルを巻回軸と平行な排出方向に受け取る内径寸法を有する。チューブ24は少なくとも1つの荷敷きのコイル状の帯を、それがチューブ24から取り出されるまでそのコイル状の形に保持可能である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】

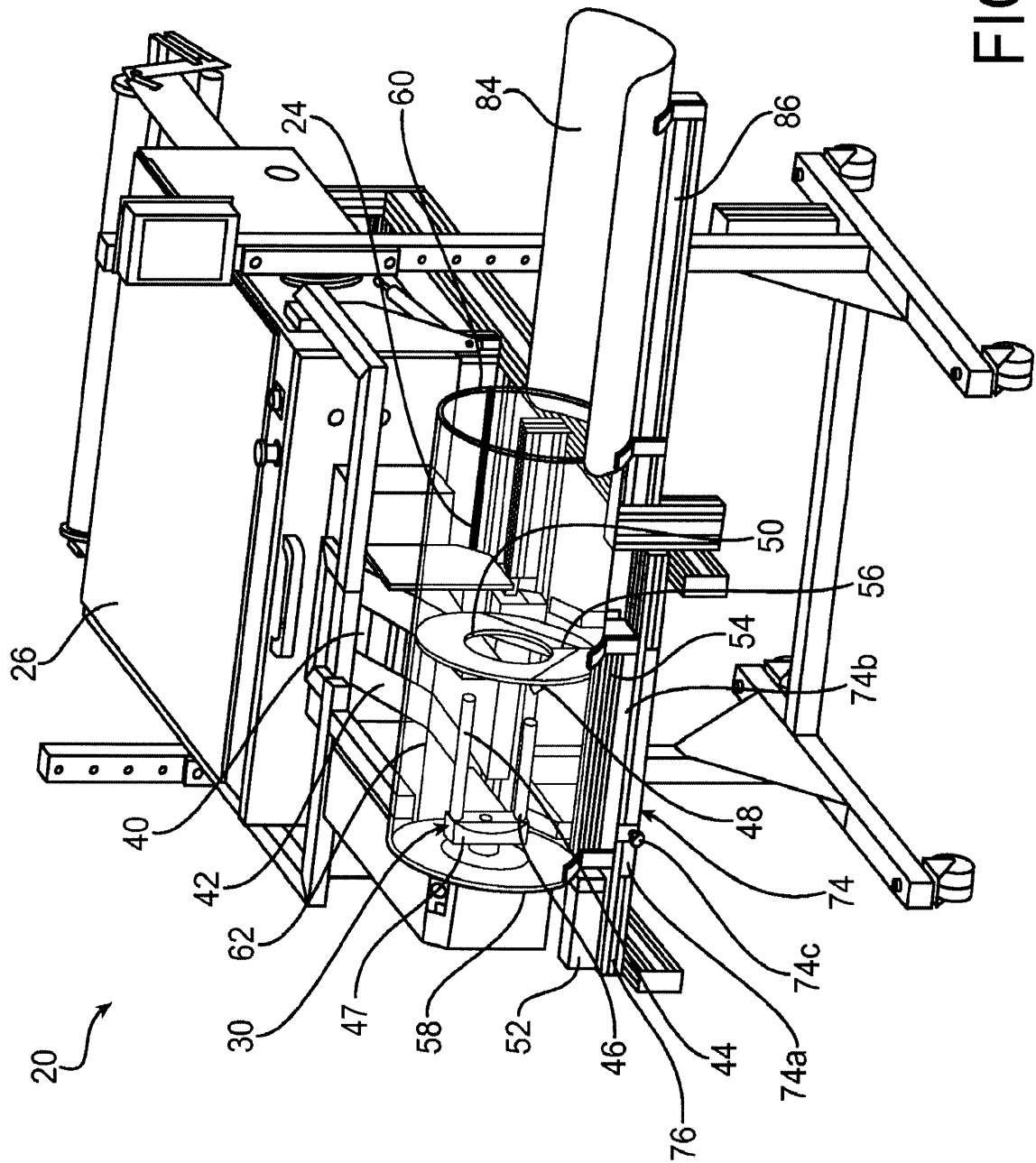


FIG. 2